

亀ヶ谷真琴 編 西須 孝 編集協力

こどもの整形外科疾患の診かた 第2版

—診断・治療から患者家族への説明まで

高山真一郎（日本心身障害児協会島田療育センター）

本書は、2011年に出版された初版の大幅改訂版で、千葉こどもとおとなの整形外科院長の亀ヶ谷真琴先生をリーダーとする千葉大学小児整形外科グループおよび千葉県こども病院で研鑽を積まれた37名の専門家が分担執筆した小児整形外科疾患・外傷の実践的解説書である。

本書は小児整形外科の疾患を、下肢・上肢・体幹・スポーツ障害・成長に伴う問題・腫瘍性疾患・全身性疾患に分類し、それぞれについて患者家族からの質問と回答、診察上の留意点、専門医へ紹介するタイミング、解説（疾患概念、診断、治療）が述べられている。質問項目は、実際に千葉県こども病院の相談室に寄せられた内容に基づいているとのことだが、整形外科医からみても疑問に感じる点、知りたい項目がピックアップされている。さらに最近の話題や参考文献も紹介されている。

整形外科=Orthopaedicの語源は“小児の身体変形を予防し矯正する技術”という意味で、小児整形外科は整形外科学の源といえる領域である。日本整形外科学会の研修プログラムでも、小児整形外科は必修単位として義務づけられているが、出生数の減少や、大学が主体となる卒後研修制度では指導者も不足し、実践に即した小児整形外科の研修を行うことは容易でない。

小児整形外科は、古典的な三大疾患（先天性股関節脱臼、先天性内反足、筋性斜頸）のイメージが定着していて、外傷・脊椎・腫瘍・手外科などは従来重要視されていなかったが、スポーツ・骨系統疾患なども含め整形外科のほとんどの分野にかかわるものである。そのため、一人の専門家や単一の施設でその全てをカバーすることは不可能であるが、本書は日本小児整形外科学会編集の『小児整形外科テキスト』（メジカルビュー社、2016）に匹敵する項目が取り上げられ、千葉大学小児整形外科グループの力量に感心する次第である。

本書は、小児整形外科の基本を学んでほしい研修医や、専門医をめざす整形外科医だけでなく、各疾患ともに専門家へ紹介するタイミングが記載されており、一般病院勤務医や開業医にとっても有益な情報を与えてくれる。さらに最近の話題という項目には、それぞれの分担執筆者の個性が感じられ、小児整形外科のエキスパートも興味を持って読める内容となっている。初版の40疾患から64疾患にボリュームアップしたことで若干重複する内容もあるが、小児整形外科の全領域が網羅されており、小児整形外科のテキストとして自信を持って推奨できる。（B5判 頁432 2019年 定価：本体9,000円＋税 [ISBN978-4-260-03677-1] 医学書院刊）